



【心の貧しい者は幸いです。(1)】

聖書本文：マタイの福音書 5章 1-10節 / 暗唱聖句：マタイの福音書 5章 3節



クリスマンプレイズチャーチ 鄭南哲 牧師

愛する信仰の兄弟、姉妹、家族の皆さん！先週一週間もお元気でしたか。

今週から連続シリーズととしてイエス様が山上で教えて下さった聖書の中ですべての御言葉が大事ですが、その中で特に**宝訓**だとクリスマンたちに言われている御言葉に関してともに学んで行きたいと願っております。

新約聖書マタイの福音書 5-7章はいわゆる**山上宝訓 (さんじょうほうくん)** だと言われます。つまりイエス様が山の上で伝えられた尊い教訓という意味です。山上宝訓というと、クリスマンの多くの方々は‘右の頬 (ほお) を打たれると左の頬も向けなさい。’, ‘敵を愛しなさい。’ こういった道徳的内容ぐらだと誤解する場合があります。しかし山上でのイエス様のメッセージは神様の民とされた人々がどうすれば、どうなればさらに神様の祝福を受けることができるのかについて教えてくれます。マタイの福音書 5: 1-12節は山上の説教の基礎として八つの福だと言われます。

< 1. “心の貧しい” の意味 >

今日の本文の御言葉は単なる経済的に‘貧しい者’が幸いになるという御言葉では決してありません。実際、原語の意味もそうです。

(1) 霊的な側面で貧しい人とは(対象)?

この箇所をより理解するために同じ御言葉である**ルカの福音書 6章 20節**の箇所を参考にしたいと思います。どなたが一度読んでくださいますか。ここでは‘心’なしでただ‘**貧しい者は幸いです。**’と書かれています。**6章 20節**の上半節で“**イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら**”と書かれた部分に目をとめてください。イエス様は今**貧しい者**だとされた人たちはだれですか。イエス様の前に出ている弟子たちに向かって“**貧しいあなたがたは幸いです。**”と言われたのです。つまり、**イエス様は経済的に貧しい人たちではなく、イエス様に出て来た人たちが幸いであると言われたのです。**当時、イエスを信じるとイスラエルではもちろん今もそうですが、ユダヤ教のその群れから追放の迫害は逃せませんでした(ヨハネ 9:22)。イスラエルのように宗教が支配している社会で迫害を受けるということは貧しくなることと直結していました。ですからイエス様を追いかける弟子たち、イエス様の御前に出て来た人たちは過去の 身分がどうであれ**実際貧しい人**たちでした。イエス様は彼らに**幸いだ**といわれたのです。

みなさんの中でイエスを信じることで**苦しみや損害**を受けられた方がいますか。神様の信じるということ**で迫害や苦痛**を受けられたことはありますか。イエス様を信じる**ことがむずかしい状況**にもかかわらず、ただ神様だけを信頼し、神様の助けを求めたことがありますか。そしたらみなさんも**イエス様が祝福**して下さった同じ**心貧しい者**だと思います。そういうわけで**貧しい人**は**徹底的な信仰**の人です。

(2) 心の意味は?

今日の御言葉はとっても短いですが、この中にもう**答え**があります。イエス様が言われた**幸いな人**は**経済的に貧しい人**ではなく**心の貧しい人**だとイエス様は言われました。日本語の聖書では**心**だと訳されていますが、原語では‘**プニユマ**’という単語で、実は心より‘**霊 (spirit)**’を表す単語です。ですから新約聖書の中で**聖霊**を表現する時もこの‘**プニユマ**’のまえに**定冠詞 (ていかんし) (The (Holy) Spirit)**をつけているのです。ですから**心の貧しい者**というのはただ**悲しい**とか、うつだとかの**感情的な面**ではなく**霊的な面**において**貧しい者**をいう意味です。

霊的に貧しい者というのは自分が**霊的に窮乏 (きゅうぼう)**していることを認め、**神様を絶対的なもの**として頼る人です。自分の中にはいくら努力しても自分を救う何の**資源**がないことを認め、神様の**絶対的な恵みと哀れみ**をまるで**施し**を求めるように切に求める人です。この人たちは**イエス様の助け**がなければ、**イエス様を信じる信仰**がなければ**人生に希望**が

ないと告白する人たちです。自分は神様の御怒りとさばきの下にあるので神様の哀れみと恵みでなければ生きていけないことを信じ、日々神様の恵みを慕い求める人です。自分が霊的にどれだけ軟弱で、貧しいものなのかをさとる人です。神様を離れては自分の真の姿がみえなく、絶望的で罪に無気力な自分であることを認める者です。一言で言うと神様の御前に素手でいく状態です。両手をあげて神様にただ神様のみをみあげながら出て行くのです。

<2. 聖書で表されている霊的貧しいたち>

聖書では‘わたしが目を留める者はへりくだって心碎かれ私のことばにおののく者だ(イザヤ 66;2)｡’また‘主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、たましいの砕かれた者を救われる。(詩篇 34;18, 51;17)’と語っています。聖書には霊的に貧しい人たちがたくさん出ています。自分は何のさとりもない者だと告白したヨブ(ヨブ 42;1-6)、そして神様の御前で自分はけがれていて、何の知恵や無力な者だとなげいたモーセ、ダビデ、ギデオン、イザヤ預言者(イザヤ 6;5)、神様の御前で、目を向けようともせず、罪人だと告白したある収税人(ルカ 18;13-14)、攻撃的で自己主張が強かったペテロにたくさんの魚を取るようにならせたイエス様に“私は罪人です。”と告白したペテロ(ルカ 5;8)、“自分には何の良いものがない”と告白したパウロ(ローマ 7;18, 第一テモテ 1;15)など神様に用いられた多くの信仰の人たちが実際にはどれだけ霊的貧しい者だったのかを私たちはわかることができます。

反面、聖書には心の貧しくないものたちもたくさん記されています。神様の命令をあなどって自分を頼ったため苦しめられたサムソン(士師記 16;20)、自分は義人だと信じ、ほかの人をさげすんだパリサイ人(ルカ 18;9-14)、自分の持っていた物質だけが永遠であるように信じ、神様を頼らなかつたおろかな金持ち(ルカ 12;19)、本当はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸のものであるのに‘自分たちは富んでいると、豊かで乏しいものはなにもないと’言ったラオでキヤ教会の信徒たち(黙示録 3;17)など神様の前で霊的に高慢で、富むものだと自称して、結局は神様にしかられた多くの人たちもいます。

初代教会から中世教会に時代が変わるころ偉大なキリスト教思想家だったアガスティンはキリストの福音を人がまったきものとして受け入れない最高の障害物は自分たちの高慢にあると強調しました。自分の知識、自分の富、自分の地位などを誇る時こそ高慢なときだと指摘しながら、彼はそんな私たちがもっているすべては偉大な神様の御前では何もないことだと認めるまでキリストは自分たちとはなんの関係がないと訴えました。宗教改革者であるマルティーンルターは自己犠牲、自己功勞、自己虐待が神様の前ではなんの益とならないことをさとった時こそ、心が貧しくなると言いました。有名な神学者であるウィリアムハンドリックス先生は“心の貧しい者というのは自分の霊的貧困を日々確信する人たち”だと言いました。真に正しいと思います。19世紀イギリスの有名な説教家だったチャルズスパールジャン先生は“イエス様の教えてくださった天国を所有する心の貧しい者というのは心の中心で自分の足りなさを認め、悲しみながらそしてこの事実を日々告白する者たち。”だと言いました。20世紀キリスト教のすばらしい作家だったルイス(C. S. Lewis)はこの言葉を残しました。“自分が考えた時すぐれたとか、だれだれさんよりはましだという考えがあるならそれは神様によって動かされるのではなく悪魔によって動かされるに間違いがない。今自分が神様の御前にいるということを現してくれる正しい基準といえそれはあなたが自分の立場を忘れるか、あなた自身を惨めで、けがれたものとしてみる事です。あなた自身について全部忘れるほうがましだ。”

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！

今日私とみなさんは生きておられる神様の御前でどちらに立っていると思いますか。みなさんは霊的に貧しい人ですか。それとも自分は霊的に問題なく、富んでいるので、神様の助け無しでも十分生きていられると信じている人ですか。みなさんは先週一週間の間、神様の御前で正直に、懇切に神様の哀れみと恵みを慕い求めながら霊的貧しい者として生きましたか。それとも神様なんか必要ではない者のように、神様とは全然関係ない者のように生きていませんでしたか。この時間神様の御前で自分自身をさぐり、神様の哀れみを求め、悔い改めようではありませんか。

今日も生きておられる神様の御前で心の貧しい者になりましょう。

今日私たちは、神様の御前で認めることがあります。今日、教会に初めて来られた方でも、長らく、イエスを信じてきて

いる人でも、自分は神様ではない事実と生きておられる神様の御前で自分たちはなんのほこるものはないことを認めることだと信じます。そして日々、切に神様の哀れみと助け、神様の恵みを追い求めるみなさんとなりますように切に願います。アーメンですか。アーメン！

<3. しかし…誤解してはいけない部分があります!>

しかしみなさん！ 私たちが注意すべきことがあります。心が貧しくなるということは決して軟弱で勇気もなく、受動的クリスチャンになれという意味ではありません。みなさん！ 忘れないでください。心の貧しいというのは確信がないことではなく、むしろ主に対する確信があるということです。心の貧しいというのは勇気がないことではなく、むしろ主にあつて勇気があるということです。心の貧しいというのは意欲がないことではなく、むしろ主にあつて意欲があるという意味です。心の貧しいというのは受動的でいつも弱いではなく、むしろ主にあつて主から与えられたタラントを積極的に活用し、健康なクリスチャンになるということです。

心の貧しいというのはイエスキリストにあつて確信と勇気と意欲があつたとしても、神様の助けなしにはなにもできない存在であることを認め、告白することです。そして心の貧しい人たちは自分の霊的足りなさ、失敗を認める者、それでただイエス様だけを頼る者です。イエス様を信じ、追いかけられた弟子たちの一生を考えてみてください。彼らは趣味として、時間があまって、余裕があつてイエス様を追いかけられたものたちではありません。どんな苦しみと試練がやってきても献身し、神様に人生をかけ、命をかけて神様を信じた者たちではありませんでしたか。

まとめ：<御国は霊的に貧しい者たちに与えられる祝福です。>

みなさん！ 心の貧しい人たちの人生はどうでしたか。彼らは不幸でしたか。全然そうではありませんでした。むしろ彼らの人生は美しいほど素晴らしかったです。彼らは死んで天国の喜びを味わったものだけではなく、涙と苦しみの多いこの地上でも天国の喜びを味わいながら生きたものたちです。

イエス様は心の貧しい人がかわいそうではなく、‘幸い’（ギリシャ語でマカリオイ）だと言われました。

なぜですか。心の貧しい者たちに与えられる神様の補償は天国つまり神様の御国をくださると約束されたからです。聖書のたくさん箇所に天国はたしかにイエス様がおられるところとして場所をもっていると書かれています（ヨハネ 14:2, 3, ルカ 23:43, ペリピ 1:23, コロサイ 3:1, 第二ペテロ 3:13, 黙示録 21:1 など）。そしてイエス様を信じる者はだれでも主がおられる天国でともにいられると信じます。しかし死んだ後だけではなく、現在この世を生きている間でも御国を経験されると聖書は教えています。自分の中に住まわれる聖霊によって、神様が自分たちを治めると御国の喜びを味わえるということです（ルカ 7:21）。するとこのような天国はだれのものだと言われているのですか。

‘心の貧しい者’の分だと宣言されました。この世では艱難に会い、苦しめられますが、神様をかたく信じ、望む者たちに神様は天国の祝福をくださると約束されました。神様が治め、神様が守ってください、神様がいつもともにいてくださって導いてくださる祝福をこの世にあつてもいただける祝福の秘訣をイエス様は教えてくださったのです。天国は自分に押し立てることはなにもなく、ひたすら神様だけを見上げる者に与えられるプレゼントです。資格がない人に与えられる神様の一方的恵みです。天国は心にやってきます。自分たちが謙遜にならなければ、けっして得られないプレゼントです。心の貧しい人たちは自分たちの王国を放棄し、逆に神様が支配される御国を所有する幸いな人たちです。

私たちも、この世を生きている間でも御国を所有する幸いな者となりますように祈ります。死んだ後もあの御国で神様とともに賛美し永遠に交わる仲間となるように切に祈ります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族の皆様！

主にある確信と勇気と意欲と情熱と信仰をもって生きますが、毎瞬間、自分を無にしてイエスキリストだけを慕い求め天国の祝福をいただきましょう。自分だけではどうしようもできないものであることを認め、素手をあげ、十字架だけをつかんで、生きている間イエスキリストだけをたより、いつでも、どこでも神様の助けを経験する祝福の通路となるみなさんと私となりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！